令和6年度（R6年4月～R7年3月） 学 校 評 価

◇ 評価点は、Ⅰ～Ⅸのカテゴリーごと各項目を、〔3 ： あてはまる ２ ： ややあてはまる １ ： あてはまらない〕と採点し、その平均点として表したものである。各カテゴリーの点検内容については別紙公開の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参照。

カテゴリー ・ 項目数	自己評価	学校関係者評価
Ⅰ 教育理念・教育目的 （11項目）	評価点〔 3．00 〕 設置目的、自校の特徴をふまえ明示している。入学生の特徴とカリキュラムポリシーの整合性は継続して検討する必要がある。また、卒業時に持つべき資質について、社会のニーズと乖離が生じていないか、新入職者の状況等情報収集を行う。	評価点〔 3．00 〕 自己評価の内容を承認
Ⅱ 教育目標 （ 7項目）	評価点〔 3．00 〕 ディプロマポリシーを教育目標に置き換え明示している。3年間で段階的に目標をもって学習できるよう、ディプロマポリシーとの繋がりがわかる学年別到達目標を提示している。「臨床と学校の連携を考える会」で、卒後教育の状況、基礎教育、臨床の現状について情報共有し、ディプロマポリシー点検の参考にする。	評価点〔 3．00 〕 自己評価の内容を承認
Ⅲ 教育課程経営 （31項目）	評価点〔 2．96 〕 ナイチンゲール看護論を教育の基盤に起き、講義・演習科目・臨地実習を関連させた進度になるよう構成し教授活動を行っている。新カリで多く取り入れた演習形態の学習が、教員の業務量の増加につながっている。ICTの活用、業務分担の見直し、実習指導体制の検討、実習指導教員の配置要望などに取り組み、学習効果は上げつつ、教員の働き方の改善を検討していく。	評価点〔 2．96 〕 教員の働き方、時間確保の苦労はわかる。演習サポートなど、臨床の看護師が何かサポートできることがあるのではないか。実習指導経験や確かな技術力を持つ、プラチナナースの活用など、幅広く柔軟に検討してもよいのではないか。
Ⅳ 教授・学習・評価過程 （17項目）	評価点〔 3．00 〕 教育理念から単元の指導目標まで一貫性のあるもので展開し、学生からの評価も参考に、教員同士のカリキュラム評価で日々改善に取り組んでいる。授業評価アンケート回収率向上に向け、回答時間の確保等を行う。講義資料の適切な取り扱いに関してはルールを明確にし、誓約書も整えたため活用していく。GPAの活用は、総合評価表を作成し活用方法を明確にした。学生の履修相談面接等に活用し、学習支援につなげる。	評価点〔 3．00 〕 講義資料のデジタル化は今後さらに進むと思われる。改ざんや流用の可能性もある。誓約書を書かせただけでは理解できないこともあると思われ、学生への情報リテラシー教育は今後も工夫が必要。
Ⅴ 経営・管理過程 （36項目）	評価点〔 2．91 〕 安定した教育力の維持のため、専任教員の定数確保に加え、実習指導教員の配置について再度交渉を進める。 施設の経年劣化に対する修繕の計画的実施、保守管理を継続して取り組んでいく。 合理的配慮を必要とする学生の対応について、ガイドラインの作成、職員間での運用マニュアルの共有に取り組んでいく。 将来構想については、関係部署で検討会議を継続していく。	評価点〔 2．91 〕 自己評価の内容を承認
Ⅵ 入学 （ 2項目）	評価点〔 3．00 〕 推薦入試受験要件を変更したこともあり、受験者は増加、一般入試も微増した。しかし、大学進学を理由にした辞退者が6割を超え、定員を満たす入学者が確保できなかった。入学後の成績推移に注視し、入学者選抜方法の妥当性を検証する。また、学生獲得の方略を検討し実施する。	評価点〔 3．00 〕 自己評価の内容を承認
Ⅶ 卒業・就業・進学 （ 8項目）	評価点〔 2．75 〕 看護師国家試験の合格率は16年連続100%であり、卒業時の教育水準は維持できている。 卒後1年時点のアンケート調査を今年度もWebで実施した。回収率は57.9%と大幅に改善した。統計的整理は今後の課題である。回答の分析と、回収率の維持の工夫を図っていく。 HomeComingDayの広報活動も強化し、卒業生の活動状況の情報収集に努める。	評価点〔 2．75 〕 在学中カウンセリングを受けて卒業した後の経過についてどのように考えていくか。どの病院にも相談室が設置されており、全く知らない人に相談できることはメンタルヘルスでは大事なこと。就職先と学校がオープンにコミュニケーションが取れるような連携を図ることで、継続したフォローができるとよいのではないか。
Ⅷ 地域社会／国際交流 （10項目）	評価点〔 2.80 〕 地域・在宅看護論の授業を通し、地域との交流の機会が増えた。トロベーWeekの協賛も地域のニーズに応える活動として効果的であったため継続する。 今後、災害看護と国際看護を関連させた授業展開の充実と、幅広く国際的観点で学習を進める教材の充実を図っていく。	評価点〔 2.80 〕 自己評価の内容を承認
Ⅸ 研究 （ 3項目）	評価点〔 2.66 〕 2例の共同研究を実施し、教員相互で支援しあう文化的素地は高まった。研究活動は勤務扱いとしているが、時間的保障に不足がある。勤務時間内に実施できるよう改善を図る。	評価点〔 2.66 〕 自己評価の内容を承認

◇学校関係者評価会議　令和7年4月23日　本校会議室で開催

委員長　櫻井　郁子 （公益社団法人静岡県看護協会常務理事）
副委員長　ボッグズ葉末 （地方独立行政法人静岡市立静岡病院副看護部長）
委員　間淵　元子 （医療法人社団宝徳会小鹿病院看護部長）
委員　深澤　一史（静岡市立静岡看護専門学校後援会会長）

事務局
瀧　泉 （副校長）　突田 一（事務長）
松永 貴子（教務長）矢野 玲枝（技監）
宮田 芳衣（技監）　脇田由紀子（教務主幹）
杉山 加苗（教務主幹）